



男性がん患者の集い“Face”

国井 慎司 さん

「男性がん患者会 Face」主宰者

■ 自己紹介

札幌から参りました国井と申します。今から8年前、55歳の時に前立腺がん罹患、全摘手術を受けて、現在、経過観察中です。

仕事の方は、約40年間、主に外資系の製薬会社で、抗がん剤や難病治療薬のビジネスに携わっておりました。約20年間東京に住んでいましたが、昨年リタイアして、生まれ故郷の札幌に戻りました。

その後、癌治療学会の「認定がん医療ナビゲーター」の勉強をしたり、がん教育の外部講師の研修を受けたり、また、いくつかの患者会に入会し、各地の患者サロンでも多くの患者さんと出会う機会がありました。

■ 男性同士で語り合う場がほしい

ある一つの思いが・・・ Face 男性がん患者会Face

今の日本には、男性のための患者会が必要！！

国内には女性のための患者会はたくさんある
乳がんの会、子宮がんの会、アピアランスケアの会など

各地の患者サロン参加者も圧倒的に女性の比率が高い

そんな中で、ある一つの考えを持つに至りました。「今の日本には、男性のためのがん患者会が必要では」という思いです。

乳がんや子宮がんなど、女性ための患者会はたくさんあります。また、各地で行われている患者サロンや患者会の参加者は、ほとんどが女性なのです。男性だけで本音を語り合える場は、国内にはほとんどないのが現状です。

ある患者会で「主人ががんになったのですが、本人は全く治療に関心がなく無頓着なので、私が代わりにお話を聞きに来ました」という女性がいました。

ある患者サロンでは・・・ Face 男性がん患者会Face



「主人ががんにかかったのですが、治療に関心が無く、無頓着なので私が代わりにお話を聞きに来ました」

また別のサロンでは、折角ご夫婦で来られたのに、ディスカッションが始まると旦那さんはその場から離れ、奥さんだけが残る、そういう光景も目にしました。

何か問題が起きた時、女性は比較的すぐに周囲に助けを求める傾向があり、信頼できる第三者に相談し、共感してもらいながら困難を乗り越えることが多い。それに対して男性は、問題が起きると先ずは自分で考えて、どうしても無理だと思った場合のみ他者に相談する傾向があるようです。

私自身も、前立腺がんの診断が確定し、主治医から「手術にするか、放射線にするか決めて下さい」と言われ、悩みに悩み手術を選択しましたが、あの時、他の患者さんの経験をお聞きできていれば、例えば尿漏れのこと、性機能のことなど、男性同士で気軽に話せる場があったら良かったのにと考えています。

■ 男性がん患者会を立ち上げる

2025年7月「男性がん患者会 Face」を立ちあげました。Faceに込めた思いはこの3つです。

- ・仲間と向き合う
- ・がんという病に立ち向かう
- ・仲間と一緒に良い顔、笑顔になろう

がん種を問わず、男性患者であればどなたでも参加いただき、男性特有の悩みをざっくばらんに話し合いながら、一緒に患者力を高めて行きたいと願っています。

男性がん患者会 Face (フェイス)



Faceに込めた3つの願い

- 仲間と一緒に(Face)向き合う
- がんにしっかり(Face)立ち向かう
- 皆で(Face)良い顔・笑顔になろう

がん種を問わず、男性特有の悩みをざっばらんに話し合いながら、患者リテラシー＝患者力を高めよう！！

■ 「男性がん患者会Face」活動を開始

がん診療連携拠点病院である斗南病院（札幌）が会議室を貸して下さることになり、毎月第4木曜日の午前中に男性がんサロンを開催しています。しかし、平日の午前中に集まれる方には限りがあるので、10月からは、第3木曜日の19時半からオンライン交流会も始めました。全国どこからでも参加いただけます。

「男性がん患者会 Face」については、北海道新聞が記事にして下さり、地元のFM局にもお招きいただき、雑誌にも掲載されました。先日の国際男性デーには、朝日新聞からも取材を受けました。

Faceへのサポート Face 男性がん患者会Face

北海道新聞に記事掲載

地元のFM局に出演

雑誌に掲載

■ 男性がん患者としての思い

取材に際して申し上げたのは、やはり男性の尊厳に関しても、周囲の理解、社会的な認知が重要になるのでは、ということでした。

私は、全摘手術を受けた後に尿漏れの副作用が起こり、尿漏れパッドを使いました。自分が前立腺がんになったことは躊躇することなく周囲に伝えられましたが、尿漏れでパッドを使っているということはなかなか言えませんでした。交換した使用後のパッドを入れたスーパーの袋をカバンに潜めて持ち歩くという日々が一年半。パッドを使っているのは、男として恥ずか

しいという意識が働いておりました。女性トイレにサニタリーボックスがあるのは当然ですが、男性トイレにはほとんどない。今後改善されることを願っています。

■ がんサロンの現状と参加理由

新聞掲載など、メディアの影響もあったと思いますが、第1回がんサロンには21名、第2回は23名もの方に参加していただきました。天候にもよるとは思われますが、3回目、4回目は10数名。参加者にお願いして毎回アンケートを実施しています。年齢は70代の方が大半で、がん種は様々ですが、前立腺がんが約半数を占めており、ほぼ、統計の患者数とリンクしています。「会に参加した理由は何ですか？」という問いに対しては、「患者同士で話がしたかったから」という回答が最も多く、「男同士の会があると聞いて来ました」という方もかなりおられます。

満足度の面では、参加人数が最も少なかった第3回が満足度100%であり、参加人数の少ない方がお互いにじっくり話しができて、高い満足度につながっているようで、これも今後の参考にしたいと考えています。

■ おわりに

全国の皆様も、是非オンラインでFaceにご参加下さい。まだ立ち上げたばかりの会ですから、いろいろとご助言をいただければ幸いです。

一人でも多くの男性患者さんが笑顔になることを目指して、活動を継続していくつもりです。

全国の男性患者さんの 笑顔を目指して！！

ご清聴ありがとうございました

(要約：国井慎司)